No. 63
昭和41年8月10日

広報しらね

発行／白根市役所
編集／企画審議室

人口のうごき

(8月1日現在)		(7月中)	
人口・	34,178	出生・	27
男・	16,337	死亡・	32
女・	17,841	転入・	39
世帯・	6,307	転出・	53

40年度各会計の帳じり

建設事業に二億円
約一千万円を繰り越す

一般会計

し尿処理場、公営住宅、庄瀬小学校体育館、白根地区学校給食センター、乳児保育園、庄瀬保育園それに震災復旧事業の松橋、高井、萱場の市道三橋の完成など多くの建設事業をおこなって、公共施設の充実を推進してきた四十年度決算見込み＝財政の帳じりが、このほどまとまりました。このように、多くの建設事業をスムースにおこなって、しかも建全財政をたもちえたのも、みなさんのご協力と国県の援助によるものと、厚く感謝申し上げます。

四十年度各会計の決算見込み状況のあらましを説明して、みなさんから、充分ご検討をいただき、こんごとも市政運営に格別のご支援をお願いします。

一般会計

まず、収支状況から説明しますと、四十年度の歳入決算見込み額は、六億七千六百八十四万円、歳出決算見込み額は六億六千六百八十五万円で、差引き九百九十九万円の黒字決算をして、四十一年度へ繰り越しました。

次は歳出の内容です。総額は六億円台を大きく越えて、六億六千六百八十五万円となって、三十九年度よりも九千七万円上回り、いままでにない財政規模を示しています。これは、建設事業費と人件費が増えたのがおもな原因となっています。

さて歳出を性質別にみますと、みなさんの生活ともっとも関係の深い建設事業費（普通建設事業費と災害復旧事業費）が三十二・三%二億千四百八十六万円で最高、つづいて人件費二十六・八%一億七千九百五万円、補助費十・六%七千五十三万円などの順になっています。建設的なおもな仕事の内容は、別に掲げましたのでごらんください。

また、歳出額を人口一人当り、一世帯当りではいくらになっているかをみますと、それぞれ一万九千二百八十八円と十万六千八百六十七円になっています。

国庫支出金が最高

こんどは歳入を説明します。歳入総額に占める割合は震災復旧事業が高率補助事業の適用をうけたため、二十三・八%一億六千百十九万円の国庫支出金がトップです。つづいて、二十二・九%一億五千五百三十二万円の市税。それとほとんど同額の地方交付税が二十二・二%で順を追っています。

それから、市税の課税額に対する収入済額の割合は、九十四・三%で三十九年度と同率になっていますが、なお一層市税納入について、ご協力いただきたいと存じます。

また、税負担の状況をみますと、人口一人当りでは四千四百九十二円、一世帯当りで二万四千八百九十円となっています。そこで、歳出額の一人当り、一世帯当りの額とくらべますと、それぞれ歳出の方が、歳入の四・三倍にもなっていることがわかります。このことは、卒直にいって少ない負担で、数倍の行政効果があがっているともいえますし、また一面国県支出金や、地方交付税などが市の大きな財源となっていて、自己財源（市税）は歳入総額の四分の一くらいしかないことを示しています。国と県と市町村の財源の配分方法をきめている現在の税制度そのものが、再検討されなければならないところにきている、ともいえましょう。

40年度各会計決算見込み額　（単位万円）

会計	歳入	歳出	歳入歳出差引き額
一般会計	6億7,684	6億6,685	999
国民健康保険	1億0,301	1億0,891	△590
国保診療施設	321	300	21
白根高校整備	1,054	1,384	△330
農林水産施設災害復旧	6,586	7,297	△711
公益質屋	135	111	24

（△印は赤字額を示す）

おもな建設事業

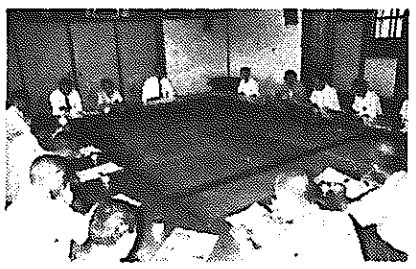
（単位万円）

▲一般会計	
根岸巡査駐在所建設費	140
乳児保育所建設費	549
乳児保育所敷地買収費	225
庄瀬保育所建設費	610
し尿処理施設組合負担金	1,100
伝染病舎組合負担金	479
農業振興融資予託金	250
農薬空中散布費	120
産業育成資金予託金	2,770
新町通り舗装事業費	411
新飯田地区ろっ骨道路整備費	243
各地区道路新設改良費	555
国県道改良工事負担金	853
地盤沈下対策事業負担金	854
都市計画街路事業費	1,076
市営住宅建設費	647
庄瀬小学校体育館新設費	1,310
白根地区学校給食センター建設費	1,490
震災復旧事業（市道橋3橋）費	7,959
▲白根高校整備特別会計	
白根高校建設負担金	832
▲農林水産災害復旧特別会計	
農地農業用施設災害復旧費	5,864

家畜のし尿処理施設を
—市政懇談会での要望—

例年四月から五月にかけて開かれていた市政懇談会は、今年は、やり直し県知事選挙などがあっておくれましたが七月二十一日小林地区、二十三日根岸地区、八月六日茨曽根地区で、それぞれ駐在室を会場にして開かれました。

いままでに開かれた会場で新しい問題としてでたものをピックアップしてお知らせしますと、(1)地盤沈下復旧恒久対策事業に伴う県市道の整備(2)多頭飼育の方向にある家畜のし尿処理施設に助成措置などの要望がだされ、これに対して吉沢市長は(1)農家の生産活動を地盤沈下の被害から守るために、多大な国県補助金が投入され、市も一千万円からの負担金を一般財源から出して、恒久対策事業に協力してきた。その結果、市道がデコボコになって市が一方では被害者となった。このことをみなさんも充分認識されたい。しかし、デコボコになった市道や県道は、このままにしておくわけにはいかないので、最少限度の手当が必要である。その手当は、少なくとも日常生活に支障のないようにしなければならない、と基本的に考えている。そこでお願いしたいのは、みなさんの方からも、最少限度の整備で当分の間がまんしてもらいたい。(2)家畜のし尿処理を考えないで、畜産振興と環境衛生の向上はありえない。農協からも中心となって処理施設の整備をしてもらいたいが、市としても行政の総合性という面から協力する考えである。と説明しました。


小林地区市政懇談会のもよう

衛生思想を組織の力で
白根市保健会が発足

七月十三日、産業厚生会館で「白根市保健会設立総会」が開かれました。

これは、—自分たちの健康は自分たちの手で—というスローガンのもとで、婦人会、助産婦会などが中心となって一年も前から発足の準備をすすめていたものです。

この日は、吉沢市長、猪股新津保健所長などの祝辞のあと、規約の制定、正、副会長理事、各支部長、監事などの役員を決め、保健所長の記念講演を聞いてこの日の日程をすべておえ、同会はこの日から正式に発足しました。

—この会の目的—

「用便後は手を洗いましょう」と、いうことはだれでも知っていることです。しかし現実にこれが百%実行されているかというとそうでないように思います。

このようにみなさんの知っていることは実行にうつすよう、また知らないことは講習会を開いてその知識の普及につとめ、組織の力で市民ひとりひとりの心に衛生思想をしみこませようというのがこの会の目的です。

—この会の組織—

(1)地域ぐるみの運動をもりあげるため各地区にそれぞれひとつずつ支部をもうける（白根地区はふたつ）

(2)きめのこまかい計画をたて、ひとつのことを専門的にやるためつぎの五つの専門部をもうけています。（　）内は仕事の内容

㋑普及部（仕事の連絡調整広報宣伝、正しい薬の使いかた、組織の普及）

㋺母子衛生部（任産婦の保健、乳幼児の保健、家族計画母子健康センターの普及）

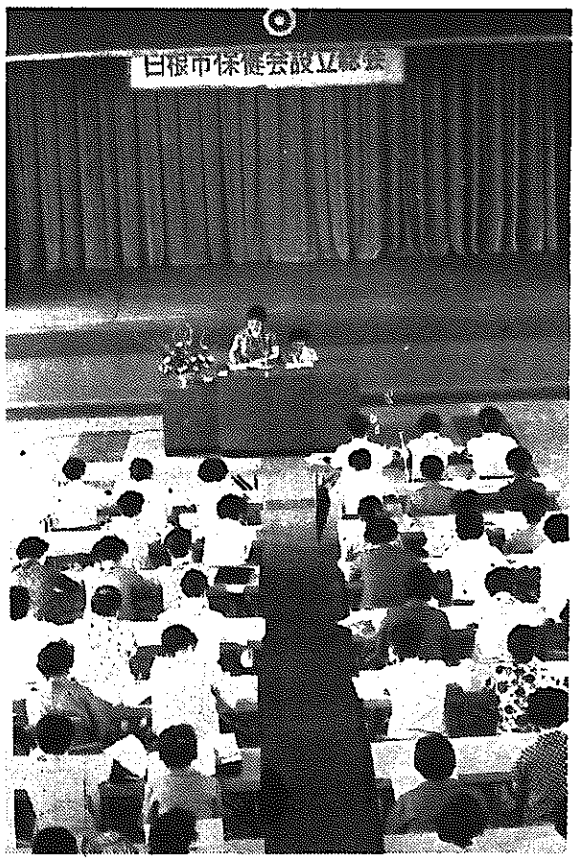
㋩防疫部（結核、伝染病、寄生虫などの予防）

㋥栄養改善部（栄養改善指導講座の開催、合理的な食事のとりかた、食中毒の予防講習会）

㋭成人病部（農夫症などの集団検診）

なお、これからは各専門部の部長を決め、事業計画にそってこんごの活動を進めてゆく方針です。この日きまった役員のうち正副会長はつぎのとおりです。

会長　吉原ミサホ、副会長　吉沢美紀、同石田カウ



健康はまず家庭からと市ぐるみで主婦が立ち上った白根市保健会設立総会（産業厚生会館で）

理科教育センターが完成

〃生徒に高度なことを教えるにはそれなりの施設が必要であり、まず先生自身が高度な知識を身につけなければ〃というので、六月七日から工事にとりかかっていた「白根地区理科教育センター」が完成、七月十四日、同センターの完工式と開所式がおこなわれました。

このセンターを利用するのは市内と小須戸町の小中学校の理科担当の先生です。同センターは市独自の建物ですが、小須戸町から〃わたしたちの町にも利用させて欲しい〃という要望があったので当市と同町が利用することになったわけです。このセンターは、市と同町で一学級あたり八百円の負担金で運営することになっています。なお、備品を買う場合の費用は市で負担することになっていますが、開所した年にかぎり二十万円の備品をそろえたときは半額の十万円を国が補助することになっています。同センターの面積は約百平方で、総工費は約百万円です。現在備品はそろっていないので、白根中学校のものを使用していますが、将来は鉱物・生物顕微鏡、それに天体望遠鏡などたくさんの機械器具や、工具をそろえる予定です。

こん月の納税メモ

市県民税　第二期
県税個人事業税　第一期

納期限は三十一日ですから、お忘れなく納めてください。